

第2章 将来像実現に向けた4つの柱

1 安心

～ 誰もが健やかに暮らせる安心と安全のまちづくり ～

〈 誰もが安心して暮らせる地域社会の構築 〉

○身近な地域の中で、市民が互いに支えあい、助け合うことのできる環境・しくみを構築し、出産・子育てから老後まで生涯を通じて安心して暮らせる地域共生社会の実現を目指します。

〈 健康づくりの推進といのちを守る地域医療の充実 〉

○市民自らが主体的に健康づくりに取り組むことのできる保健と、安心できる医療の体制・環境の整備を通じて、市民がいつまでも健康に暮らすことのできるまちを目指します。

〈 安全な暮らしを実現する強^{きょうじん}靱な都市基盤の整備 〉

○風水害対策、地震対策を含めた総合的な危機管理体制の強化を進め、災害に強い強^{きょうじん}靱なまちを目指すとともに、日常の防犯、交通安全、消防・救急など、市民の生命・財産を守る環境整備により、安全に安心して暮らすことのできるまちを目指します。

2 快適

～ 自然環境と都市環境とが調和した住みやすいまちづくり ～

〈 快適で魅力ある都市空間の形成 〉

○自然環境と調和した都市基盤の整備を進め、市民が潤^{うるわ}いと安らぎを感じることのできる快適で赤穂らしい都市景観の形成を目指します。

〈 自然環境の保全と住環境の充実 〉

○快適で機能的な住環境の整備を進めるとともに、自然環境の保全、生活環境の向上に取り組み、資源循環型社会※1の形成を目指します。

※1循環型社会…大量生産・大量消費・大量廃棄型の経済社会から脱却し、生産から流通、消費、廃棄に至るまで物質の効率的な利用やリサイクルを進めることにより、天然資源の消費が抑制され、環境への負荷が低減される社会のこと。「資源循環型社会」ともいう。